

第2回審議会（8/25 開催）での主な意見（報告）

No.	分類	意見
1	対象の細分化	・ひとづくりのターゲットについて、その他（大人）の中には、高齢者や子育て世代、県外出身の移住者など様々であるため、細分化し各ターゲットに併せた事業の組み立てが必要。
2	幅広い事業者との協働促進	・中心市街地の事業者との連携に偏っているように感じる。郊外にある事業者には郊外特有の強みや課題があると思うので、郊外の事業者と高校生、大学生が連携できる機会も増やせばいいと思う。 ・子どもたちが将来になりたい職業、夢とリンクした事業者との連携、事業内容の構築が必要。
3	関係機関との連携強化	・県と市が似たような事業をそれぞれで行うと教育現場の負担感が増え、人の取り合いにもなるため、情報交換を密にし、それぞれの役割分担、事業の差別化が必要。 ・小、中学生を対象とした事業を行う場合は、学校側と校長会と連携をとらないとうまくいかないのではないか。
4	ひとづくり全体の調整	・市全体として、小学校から大人になるまで段階的にひとづくりが図られるような取り組みを継続していくことが大切。
5	仕事の魅力の伝え方	・事業において、ターゲットに仕事の魅力、やりがいを伝えるだけでなく、生業として生活していけるかといった収入面などを伝えることも重要。
6	情報発信の工夫	・参加者の喜びの声など、事業実施の実例をうまく活用し、これまで活用のない学校などに働きかけることが必要。 ・大学生をターゲットとした事業の場合、各大学によって事情が異なるため、それぞれに合わせた情報発信の仕方の検討が必要。
7	技術、知識取得の見える化	・講座などを受講して終わりではなく、資格取得など形に見えるような事業内容にすることも技術の継承や就職促進につながるのではないか。

8	起業支援	• 子供の時から色々な働き方に触れることが重要で、そのひとつとして「起業」という選択肢があることを伝えるのも大切。 • 学都が弘前の特徴のひとつなので、学生の起業実例の紹介など情報発信を強化して、気運を醸成して欲しい。 • 起業する際の事業規模も様々だと思うので、規模に合わせたセミナーの開催、支援策の検討が必要。 • 各事業で学んだ知識、技術を生かして起業できるようにひとつづくり事業間の連携が大切。
9	その他	• ねぶたの存在が子どもたちの地域愛を育んでいる。 • 子ども時代のねぶたとの関わり方が、移住や定住に影響を与える部分もあると思う。 • ねぶたは弘前を象徴するもので、コミュニティの維持、地域人材の育成に欠かせないもの。

「事業者との協働によるひとづくりに関する取り組み」の説明用シート

1 市の各取り組みの実施目的

農業や商工業などの様々な分野において、地域で挑戦する人材を育成するため、農業をはじめ、地域の産業などに子どもたちが直接触れる機会を積極的に創出し、地域への愛着や誇りを育みながら職業観を醸成することにより担い手の育成を図り、次の時代を託す人材が活躍するまちを目指し、取り組んでいるもの。

2 取り組み内容 ※庁内照会による調査結果

No.	事業名等	R2 決算額 (千円)	ターゲット					事業の性質			
			小学生	中学生	高校生	大学生	その他	専門知識、技術、技能などの習得、継承	起業家育成	就職マッチング	子ども等の職業観の醸成
1	地域産業魅力体験授業	100	○	○	○		○	○			
2	商人育成・商店街活性化事業	-				○	○	○			
3	弘前ぐらし市民ライター育成事業	1,270			○	○	○	○			
4	農業里親研修事業	35					○	○			
5	青森県りんご産業基幹青年養成事業	4,301					○	○			
6	青森県りんご病害虫マスター養成事業	1,322					○	○			
7	弘前マイスター制度	316	○	○	○	○	○	○			
8	弘前城薪能PRプロジェクト	-				○		○			
9	農業後継者りんご整枝せん定講習会兼競技会	83					○	○			
10	ひろさきローカルベンチャー育成事業	50,485					○		○		
11	創業・起業支援拠点運営事業	9,713					○		○		
12	ひろさき移住サポートセンター東京事務所無料職業紹介事業	79					○			○	
13	生活困窮者無料職業紹介事業	4,853					○			○	
14	農福連携モデル事業	-					○			○	
15	休職者等農業マッチング緊急支援事業	59,429				○	○			○	
16	地元企業魅力発信事業	-			○	○	○			○	
17	地域マネジメント人材育成プログラム構築事業	5,280			○	○					○
18	女性活躍のための地域中小企業技術力体感プログラム	864		○	○						○
19	弘前ポスター展2021	5,005			○						○
20	ひろさき「農の魅力」体験事業	496	○								○
21	地域産業魅力体験事業(工芸品関連)	744	○	○							○
22	誘致企業体験ツアー	92	○	○							○
23	高校進路指導教諭対象誘致企業ツアー	0			○						○
24	学びのまち情報提供事業	0	○	○	○	○	○				○
			6	6	9	8	16	9	2	5	8

○の数

各分類と評価のポイント（意見をいただきたい部分）

分類① 専門知識、技術、技能などの習得、継承

資料 P3～P14

【評価のポイント】

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

分類② 起業家育成

資料 P15～P17

【評価のポイント】

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 起業家が育成される事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

分類③ 就職マッチング

資料 P18～P23

【評価のポイント】

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) 求職者（働き手）を増やすための効果的な手法はないか。
- (6) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

分類④ 子ども等の職業観の醸成（職場体験、企業見学など）

資料 P24～P30

【評価のポイント】

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) ツアー、体験型の事業の場合、定員を超えた場合の効果的な対応策はないか。
- (6) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

その他（市の取り組み全体を通じて）

- (1) 市全体として事業者と協働している取り組みについて、ターゲット、性質に偏りはないか。
- (2) 市全体として様々な事業者と連携できているか。
- (3) 既存の取り組みの他、地域産業を担う人材育成が図られる、新たな取り組みはないか。 など

分類① 専門知識、技術、技能などの習得、継承

評価のポイント（意見をいただきたい部分）

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

○(No.1) 地域産業魅力体験授業

実 施 目 的	地域と学校が連携・協力しながら、地元の産業や観光資源など「地域の魅力」に愛着や関心を持つ小・中学生、高校生等の増加につながる取組を推進することにより、若年者の地元就職・地元定着を図ります。
概 要	小・中学生及び高校生等が、授業(※)の中で地域の産業について学習・体験できる仕組みを構築したほか、体験授業の実施に係る補助制度も創設しています。 (※) 授業には、「ひろさき卍学」や「体験学習・社会見学・親子レク」なども想定。 【参加対象（ターゲット）】 小学校、中学校、高校の児童・生徒及び保護者、高等技術専門校の学生 【事業開始年度】 令和2年度～ ※ 平成27年度～令和元年度は、「建設業未来の人づくり支援事業」として実施。
連携している企業等及び関わり方	令和3年度：弘前溶接協会（高校生溶接塾） 令和2年度：弘前溶接協会（高校生溶接塾） ※ 令和元年度以前は、弘前建設業協会及び弘前塗装工業会も事業を実施しています。（現在新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見合わせ。） 【企業等の役割】 ・体験授業の進行及び講師 ・実施する学校等との連絡調整 【市の役割】 ・授業実施校と実施団体との調整 ・授業実施経費の一部補助 【企業が経費負担している場合、その内容】 ・体験授業（実習）で使用する材料や消耗品の購入に係る経費、冊子等の制作・印刷に係る経費

取り組みの工夫	【事業全般】 ・授業の構成や内容などについては、事業者だけではなく、教育委員会や学校等も入りながら、児童・生徒の習熟度を考慮しながら検討できる体制を作っています。 【参加者募集にあたって(募集の告知、実施時期等)】 ・学校側が授業として実施しやすくなるよう、授業内容のポイントなどを的確に示すなどの工夫をすることとしています。
成果	【事業全般】 ※ 現時点での実施団体は、弘前溶接協会のみ。 ・事業者と学校が連携し、授業として実施したことにより、多くの生徒が参加することができました。 ・技術力を有する企業や、優れた技術を持ち活躍する職人がいることを、生徒が認識できたことにより、(将来的なUターンも含め) 地元就職の動機付けにつながりました。 (企業等の声) ・溶接技術の地域での活用場面や地元で活躍する技術者を知ってもらえることから、溶接業界の認知度向上と新規入職者の増加が期待できる。 (参加者の声) ・地元で活躍する技術者から直接指導を受けることができ、溶接に対する興味や関心が高まった。
課題	【事業全般】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により実施が困難な状況にあることから、今後の事業の内容や進め方の見直しについても検討する必要があります。 【企業等と協働するうえで】 ・仕事の魅力を伝える事業の必要性は認識しているものの、人手不足の企業も多く、実施が難しいという意見もあります。

きょうの天気概況

【概況】20日は乾いた空気が流れ込む。津軽地方はおおむね晴れて、天気は好転する。風は弱く、日中は過ごしやすい陽気となる所が多い。

【海上の波】20日は波0.5m、21日は波0.5m、22日は波1.5m。



気温・平年値 (19日15時現在)

	最高	平年	最低	平年
弘前	19.8	20.6	13.7	9.4
五所川原	19.2	19.6	13.6	9.8
青森	20.4	19.7	13.6	10.0
弘前市	19.8	19.2	13.3	10.2
五所川原市	19.8	18.9	13.0	9.7
青森市	18.7	18.2	10.5	8.4

情報を手軽にゲット！
陸奥新報社
ホームページ

県火災
あもり

21日の暦 旧暦 4月10日 先勝 長瀬

項目	弘前	五所川原	青森	深浦
日出	4:16	4:16	4:16	4:16
日入	18:54	18:54	18:54	18:54
月出	12:31	12:31	12:31	12:31
月入	1:23	1:23	1:23	1:23

全国おでかけ予報

	20(木)	21(金)	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)
札幌	25	19	20	21	22	20	22
仙台	22	13	13	12	12	19	13
盛岡	22	12	9	12	10	19	11
秋田	26	13	14	14	12	22	13
仙台	27	14	19	19	24	22	21
仙台	24	16	20	21	23	22	24
仙台	24	15	20	21	23	22	24
東京	23	19	24	25	25	24	25
大阪	21	18	22	25	25	25	25
福岡	24	19	24	26	25	25	25

予想気温 上段：最高 下段：最低 のち 時々

痛風ダイエツト？
○…まだ若いのに痛風を発症したA君に、この病気の先達、先輩のBさんがアドバイス。○「ダイエツトしねばマイネ！は1カ月で5kg減だ」と熱弁。黙って聞いていたA君だが「その割に先達、ほとんど体形変わってねけどエツトクリ。Bさん「リバウンドして次の1カ月で7kg太ったんだね。シテもまだ発作起さねば、5kgは減らす自信あるヤ」。

情報はこちらへ

あのまち このまち

プロの技術開講に
弘前地区溶接協会

弘前地区溶接協会（吉澤俊寿会長）は17日、弘前工業高校機械科の3年生35人を対象に、溶接熱開講した。地域産業について学び、体験をしながら職業観を身に付けてもらうことを目的としており、生徒は講師の高い技術を熱心に学んだ。同協会は、次世代を担う若者を育成しようと、6年前から「弘前市地域産業魅

力体験授業支援事業補助金」を活用し溶接熱開講を企画。年6回にわたり実習を行い、技術を教えるほか、安全確保への留意も伝えている。講師は同校機械科OBで、二重刃物製造所副所長長の山崎雄亮さん（36）が務め、県溶接技術競技大会で優勝した溶接部門で過去3回優勝している腕前を披露した。参加した生徒12人は、同じ金属をつなぎ合わせるアーク溶接について説明を受けた。

溶接の技術を伝える山崎さん（右端）の話を真剣に聞く生徒

この日は、弘前市の桜田宏市長が実習を見学し、「地元に受け継がれている技術を知ってもらい、将来、地域産業を盛り上げてほしい」と生徒を激励した。（稲葉智彦）

西目屋
創業者の出身地
寄付で応援続け
弘前市北村技術
村に100万円
弘前市の建設コンサルタント会社北村技術は18日、西目屋村のために役立ててほしいと、村に100万円

を寄付した。村は教育振興に活用する方針で、桑田昭昭村長は「子どもたちが進学先に自信を持って行くことができ、地域社会に貢献する人材に育つよう役立てたい」と感謝した。同社創業で前代表取締役の北村雄雄さんが同村出身で、桑田村長に「村から感謝状を」と話した。

り2009年から活用している。今回でななり、寄付総額は1万円に上った。北村さんが村に、桑田村長に「村から感謝状を」と話した。



弘前鉄道に乗り込んで沿線の実地調査を行った生徒の



盛岡を訪問した生徒ら



民謡
千社



民謡
千社

民謡
千社

○(No.2) 商人育成・商店街活性化支援事業

実 施 目 的	商店街が抱える課題の解決を図るための取組の検討や、商店街活動のリーダー等の人材を育成することにより、商店街の活性化と持続性確保を図るものです。
概 要	・商店街の課題などをテーマとした、商店街の事業者を対象とした意見交換会を開催します。 ・意見交換会の内容等を踏まえ、専門家講師等を招き、商店街が有する課題の解決に向けたワークショップを開催します。 ・ワークショップ等で出された取組等を、商店街や市、関係機関などが一体となって取り組みます。 【参加対象（ターゲット）】 商店街で事業を行っている人（若手経営者） 【事業開始年度】 令和3年度～
連携している企業等及び関わり方	・各商店街振興組合及び任意の商店街組織 ・上記商店街組織の区域内で事業を行っている人 【企業等の役割】 ・商店街の課題解決に向けた取組の実施主体 ・事業参加者の呼びかけ 【市の役割】 ・意見交換会やワークショップ等の運営 ・専門家等の候補者選定や手配 ・事業参加者の呼びかけ
取り組みの工夫	【事業全般】 ・これまで、商店街振興組合等の役員との意見交換会などが多かったことから、本事業では若手事業者や組合等に参加していない事業者もターゲットとした取組とするよう工夫しています。 【告知方法】 市及び商店街の事業者が直接呼びかけを行います。 【実施時期等】 7月、9月、11月、1月
成 果	【事業全般】 ・今年度の新規事業であることから、成果については記載することはできませんが、7月15日に開催した第1回情報交換会での意見を踏まえると、「商店街の人材不足」が共通課題であることが再認識できました。 ・今後は、商店街への加入の有無を問わず、若手の商業者を中心としたディスカッションの場となるよう取り組んでいきたいと考えています。 ・また、商店街関係者以外の人、商店街活動を担う人材となることから、本事業への積極的な参加を促していきたいと考えています。

課 題	【事業全般】 事業の実施を通じて洗い出しをしていきます。 【企業等と協働するうえで】 同上
------------	---

《市のその他の取り組み》

○(No.3) 弘前ぐらし市民ライター育成事業

実施目的	移住検討者に対して本市のまちの魅力を効果的に PR するため、市民ライターを育成しながら、市民協働による情報発信体制を構築する。
概要	・本市の地域情報を発信する民間事業者と連携のうえ「弘前ぐらし市民編集部」を編成し、情報発信に関する講座等の開催を通じ市民ライターを育成する。 ・移住ポータルサイト「弘前ぐらし」やその他 SNS を活用し、リアルな暮らしの情報や移住者ならではの情報を発信する。 【参加対象（ターゲット）】 弘前市在住・在勤・在学の人（高校生以上） 【事業開始年度】 R2 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：ニュースサイト「弘前経済新聞」編集長 【企業等の役割】 ・育成講座・編集会議の開催 ・記事の校正・統制・投稿調整 ・活動報告会の企画運営 【市の役割】 ・市民ライター選考 ・全体調整 ・記事の確認、投稿講習会兼競技会の開催
取り組みの工夫	【事業全般】 ライター個々の文書作成能力に差があるため、委託者と相談しながら、個々の能力に応じた対応を行っている。 【告知方法】 《ライター募集》 ・広報ひろさき ・弘前ぐらし、市 HP・SNS への掲載 ・弘前大学ほか関係機関へのポスター掲載 【実施時期】 ・募集は年 1 回 ・原則毎月講座を開催

○(No.4) 農業里親研修事業

実施目的	当市の農業生産の維持・拡大を図るため、地域内後継者の育成のみならず、地域外から新たな担い手を引き込むことが重要であることから、高度な栽培技術の早期習得や円滑な地域定着を図る農業里親研修事業を実施。
概要	就農を希望する人に対して、市や JA 等で構成する「ひろさき農業総合支援協議会」が認定した里親農家が、農業技術の習得や、農地探しのお手伝い、地域定着など総合的なサポートを行う研修を実施。 【参加対象（ターゲット）】 県内外の就農希望者 【事業開始年度】 R2 年～
連携している企業等及び関わり方	里親農家：24 名（個人農業者、農業法人等） 【企業等の役割】 就農希望者の受入、農業技術の指導、里親農家が所属するコミュニティへの就農希望者の仲介 【市の役割】 就農希望者に対する就農ステップのコーディネート、受入れた里親農家に対する報償金の支払い、就農希望者に対する家賃補助
取り組みの工夫	【事業全般】 就農相談から地域定着まで、本人の状況に合わせた伴走型のサポートを行うため、短期間のトライアル研修を経てから、長期間の里親実践研修を受講する 2 ステップ方式で実施。 【告知方法】 ・市広報媒体（SNS 含む）全て ・市、県東京事務所、県移住担当課との連携 ・就農フェアへの参加 ・移住イベントへの参加 ・農業系学校（農業高校、営農大学校、農学生命科学部等）へのアプローチ 【実施時期】 通年

○(No.5) 青森県りんご産業基幹青年養成事業

実施目的	りんご農家の後継者に、生産技術及び経営、経済、農政などの基礎教育を行い、それぞれの地域において、中核的役割を果たす人材を養成することを目的とする。
概要	研修期間は2年間で、基礎知識を一部復習しながら、応用を織り交ぜて行う実践的学習について、講義と県外研修により習得するための事業について委託する。 【参加対象（ターゲット）】 概ね20～35歳までのりんご農家の後継者 【事業開始年度】 S32年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：公益財団法人青森県りんご協会 《研修内容》 ・生産（栽培、病虫害、農薬、土壌等） ・経営（農業経営、農協、組織協同化） ・教養（農政、経済、りんご史） ・流通（流通、宣伝、販売） ・一般（県外研修、パソコン等） ※R2年度県外研修は新型コロナの影響により中止 【企業等の役割】 ・専門知識を有する講師の派遣 ・専門的教育により人材を養成 【市の役割】 ・事業の周知及び参加者の募集 ・研修生の推薦
取り組みの工夫	【事業全般】 応募資格について、内容を精査し、改善すべき点は見直しをかけている。 【告知方法】 農業ひろさきへ事業及び応募内容を掲載。 【実施時期】 研修生応募については、農業ひろさき3月号に毎年記事を掲載 研修は随時実施

○(No.6) 青森県りんご病害虫マスター養成事業

実 施 目 的	りんご農家の後継者を対象に、りんご病害虫の発生予察から防除までの基礎知識と応用技術を習得させ、消費者に「安全・安心なりんご」を提供するとともに、農薬費のコスト低減を図る人材を養成する。
概 要	研修期間は 1 年間で、りんご病害虫の発生予察から防除までの基礎知識と応用技術について、講義と県外研修等により習得するための事業について委託する。 【参加対象（ターゲット）】 概ね 30～45 歳までのりんご農家 【事業開始年度】 H18 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：公益財団法人青森県りんご協会 《研修内容》 ・安全使用基準 ・主要病害中生態と防除 ・農薬の知識 ・発生予察 ・防除法確立 ・現地圃場 ・耕種的防除 ・県外研修 ※R2 年度県外研修は新型コロナの影響により中止 【企業等の役割】 ・専門知識を有する講師の派遣 ・専門的教育により指導者を養成 【市の役割】 ・事業の周知及び応募者の募集 ・研修生の推薦
取り組みの工夫	【事業全般】 応募資格について、内容を精査し、改善すべき点は見直しをかけている。 【告知方法】 農業ひろさきへ事業及び応募内容を掲載。 【実施時期】 研修生応募については、農業ひろさき 3 月号に毎年記事を掲載。 研修は随時実施

○(No.7) 弘前マイスター制度

実施目的	商工業・農業などの地域産業を支える優れた技能・技術者の社会的評価を高めるとともに、後進への指導による人材育成を通じて、地域産業の活性化を図る。
概要	地域産業を支える優れた技能・技術者を「弘前マイスター」として認定し、その技能・技術の紹介や体験学習などの出前授業を行う。 【参加対象（ターゲット）】 小・中・高・大学生、企業、団体等 【事業開始年度】 H24 年～
連携している企業等及び関わり方	弘前マイスター34 名 【企業等の役割】 出前授業派遣依頼のあった学校や団体等へ、講演や技術指導を実施 【市の役割】 ・弘前マイスター派遣依頼の募集 ・依頼者と弘前マイスターの日程や内容の調整
取り組みの工夫	【事業全般】 弘前マイスターの認定基準を設け、優れた技術や技能を持ち、後進の指導に積極的に取り組む方を弘前マイスターに認定し、活動していただいている。 【告知方法】 《弘前マイスター出前授業》 市 HP への掲載のほか、関係機関へ弘前マイスターパンフレットを配布。 《弘前マイスター募集》 広報、市 HP への掲載のほか、関係機関へ推薦依頼を送付。 【実施時期】 《出前授業》 通年 《弘前マイスター認定証 授与式》 12 月

○(No.8) 弘前城薪能 PR プロジェクト

実施目的	大学コンソーシアム学都ひろさきやコンソ加盟 6 大学に所属する学生、地元能楽師、県内主要メディア各社との協働により、PR コンテンツの企画・制作、PR の実施を行う。 また、参加する大学生が日本の伝統芸能を知る機会とするとともに、各メディアの制作側の立場で活動することで、キャリアデザインの構築につなげる。
概要	地元能楽師から能についての知識と実際の仕舞についてワークショップ形式で学んだうえで、各メディア指導の下、弘前城薪能の魅力を PR するコンテンツを企画・制作し、PR を実施する。 【参加対象（ターゲット）】 大学コンソーシアム学都ひろさき加盟大学に所属する学生 【事業開始年度】 R3 年～
連携している企業等及び関わり方	(株)東奥日報社、(株)陸奥新報社、青森放送(株)、(株)青森テレビ、青森朝日放送(株) 【企業等の役割】 各メディアが持つノウハウをもとに、メディアごとに割り振ったテーマに沿ったPR媒体の企画・制作を指導する。 【市の役割】 メディアごとに担うテーマの設定、活動会場の確保、メディアと学生との連絡調整、演能団体や文化芸術団体との取材等日程調整。
取り組みの工夫	【事業全般】 学生のキャリアデザイン構築につなげられるよう、各メディアの取材やCM制作の仕組みなどを学ぶ場や、自ら企画・制作に取り組む経験ができるようにした。 【告知方法】 ・大学コンソーシアム学都ひろさき加盟 6 大学にて参加者募集チラシ配布 ・イベント詳細確認や参加申し込みの簡略化のため、チラシに参加者募集特設ページサイトの QR コードを印字 【実施時期】 R3 年 2 月～4 月

○(No.9) 農業後継者整枝剪定講習会兼競技会

実 施 目 的	高品質りんご生産の基本となる整枝剪定技術が継承されること、及び競技会において農業後継者の相互交流が深まり、りんご生産の意欲の向上を図ること。
概 要	模範指導後に、剪定の実技と筆記試験による競技会を実施する。(年1度の開催) 【参加対象(ターゲット)】 市内に居住する18歳～40歳までのりんご生産者 【事業開始年度】 S51年～
連携している企業等及び関わり方	(公財)りんご協会 【企業等の役割】 講師・審査員の派遣、試験問題の作成 【市の役割】 講習会兼競技会の開催
取り組みの工夫	【事業全般】 本事業の今後のあり方、参加者増加の取組み実施の参考とするため、参加者アンケートを実施している。 【告知方法】 農業ひろさき、市HP 【実施時期】 《参考》R2年度：令和3年1月20日(例年1月に開催)

専門知識、技術、技能などの習得、継承に関する全体の所管、成果、課題など

- ・メディア関係の事業にも取り組んでいます。(市民ライター、薪能PRプロジェクト)
- ・座学だけでなく、体験、実践を通じて知識、技術の習得を図るよう努めています。
- ・事業への参加を通じて、知識取得だけでなく、地域愛の醸成にも繋がっています。
- ・人材育成が図られるとともに、同じ道を歩む仲間づくりが図られています。

【企業等の声】

- ・就農希望者の受け入れ方法について、市で一律に示して欲しい[逆の意見もあり](農業里親)
- ・マイスターとして活動することで、自身のモチベーションアップ、業界のPRに繋がっている。(弘前マイスター)

【参加者の声】

- ・事業を通じて学べたことを将来に生かしたい。

【課題】

- ・参加メンバーの能力に差があるため、個別対応となり、時間がかかってしまう。(市民ライター)
- ・就農者の減少により、研修、競技会の参加者が減少しています。(りんご関係)

②起業家育成

評価のポイント（意見をいただきたい部分）

- （1）各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- （2）事業の実施時期は適切か。
- （3）起業家が育成される事業内容となっているか。
- （4）企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- （5）現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

○(No.10) ひろさきローカルベンチャー育成事業

実 施 目 的	「地域おこし協力隊制度」と連携し、地域資源等を活用した新たな市場や経済を創出するローカルベンチャーの育成を目指す。
概 要	カフェ&バー、アトリエギャラリー、ゲストハウス機能を備えた HIROSAKI ORANDO を活動拠点に、起業プロジェクトを実施。 【参加対象（ターゲット）】 地域おこし協力隊 【事業開始年度】 H29 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：一般社団法人 Next Commons Lab ○協 力：市内企業等 【企業等の役割】 ・ 事業運営 ・ 起業サポート（アドバイスなど） 【市の役割】 ・ 全体調整 ・ 情報発信 ・ 起業補助金の交付
取り組みの工夫	【事業全般】 ・ 技術、知識の指導を行う事業パートナーを設定し、起業家候補へのサポートを実施。 ・ 中心市街地にある空き店舗を事業拠点として活用したことで、中心市街地の地域コミュニティの活性化にも効果が期待できる。 【告知方法】 広報ひろさき、市 HP・弘前ぐらし SNS などへの掲載 【実施時期】 通年

○(No.11) 創業・起業支援拠点運営事業

実施目的	創業・起業を促進し、地域における新たなビジネスの創出、経済の活性化を促進します。
概要	創業・起業支援拠点としてひろさきビジネス支援センター（※）を設置・運営し、専門家による創業・起業に係る無料個別相談対応、各種セミナー等の開催を通して起業家の支援を行います。 <u>（※）センター概要は添付資料参照</u> また、地域の創業支援等事業者（創業支援に取り組む弘前商工会議所などの関係機関）と連携して実施する創業支援の取り組みを定めた「弘前市創業支援等事業計画」を策定し、平成 26 年 10 月 31 日に国の認定を受けており、それぞれの創業支援事業者が連携して、強みを生かした創業支援事業を実施しております。 【参加対象（ターゲット）】 創業、起業を希望される方及び既に創業・起業された方 【事業開始年度】 平成 25 年度～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：青森県中小企業団体中央会 ○協力：以下の創業支援等事業者 弘前商工会議所、岩木山商工会、21 あおもり産業総合支援センター、日本政策金融公庫、国立大学法人弘前大学、青森県信用保証協会、青森銀行、みちのく銀行、東奥信用金庫、青い森信用金庫、株式会社 I・M・S 【企業等の役割】 ・創業・起業相談 ・経営相談セミナー等開催 ・各種情報提供等 【市の役割】 ・創業・起業支援拠点の運営・管理 ・情報交換会等の開催 ・情報発信 ※ひろさきビジネス支援センターや創業支援等事業者の開催イベントの情報提供等 ・弘前市創業支援等事業計画に基づく事務
取り組みの工夫	【事業全般】 市と創業支援等事業者が連携を強化し、創業希望者の相談に対応するワンストップ窓口の設置や、各認定創業支援事業者がそれぞれの強みを生かした創業支援事業を実施することにより、創業件数の増加が期待できる。 【告知方法】 広報ひろさき、市 HP・弘前ぐらし、SNS などへの掲載 【実施時期】 ・創業・起業相談：通年 ・専門家による無料創業相談：毎週水曜日、第 3 土曜日 毎月第 1・第 3 月曜日 ・セミナー：年 6 回程度（10 月～11 月）

- ・これから起業しようとする人と、既に起業している人が交流できる機会を設けています。

【企業等の声】

- ・メンバーのクリエイティブな発想、活動が弘前を活気づけると期待している。(ひろさきローカル)
- ・創業支援等事業者が横のつながりで連携して効果的に取り組むことができている。(創業支援)

【参加者の声】

- ・弘前から新しいチャレンジを増やしていきたい。(ひろさきローカル)
- ・事業計画の作成から創業まで伴走型の創業支援を無料で受けることができてよかった。(創業支援)

【課題】

- ・活動、事業内容が多岐に渡り、状況の把握が難しい。(ひろさきローカル)
- ・任期中に起業プロジェクトを事業化することが難しい。(ひろさきローカル)
- ・創業に向けた有用な情報等のタイムリーな共有。(創業支援)

③就職マッチング

評価のポイント（意見をいただきたい部分）

- （１）各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- （２）事業の実施時期は適切か。
- （３）各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- （４）企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- （５）求職者（働き手）を増やすための効果的な手法はないか。
- （６）現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

○(No.12) ひろさき移住サポートセンター東京事務所無料職業紹介事業

実 施 目 的	弘前市への移住を検討している方に就職先の紹介・斡旋を行う。
概 要	弘前市、平川市、黒石市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村に事業所を有する企業等から求人票を募集し、青森県外に居住している弘前市への移住検討者（求職者）に紹介・斡旋する。 【参加対象（ターゲット）】 青森県外に居住する弘前市への移住検討者 【事業開始年度】 H29 年～
連携している企業等及び関わり方	・弘前商工会議所 ・ひろさき移住サポートセンター東京事務所に求人票を提出した企業等 【企業等の役割】 ○弘前商工会議所 ・事業者への制度周知 ・求職者が希望する企業等へ求人の有無の確認 ○企業等 ・求職者から求職票が提出された場合は面接の実施等 【市の役割】 ・企業等からの求人票募集 ・求職者への求人票紹介 ・求職者から求職票が提出された場合の求人者への連絡、紹介状発行
取り組みの工夫	【事業全般】 ・事業開始当初はハローワークの求人情報をもとに紹介していたが、令和２年度からは独自に求人票の募集を開始。 ・求職者に求人内容を理解していただくため、求人説明会・個別面談会を年２回開催。（令和３年度から） ・求人説明会・個別面談会はコロナ禍でも参加しやすいようにオンラインで開催。 【告知方法】 弘前市ホームページ、弘前市移住支援サイト「弘前ぐらし」ホームページに掲載の他、弘前市東京事務所メルマガ、SNS で継続して発信している。 また、地元企業等にもチラシを配布し周知している。 【実施時期】 ・無料職業紹介事業：随時 ・求人説明会、個別面談会：１０月、２月開催予定

○(No.13) 生活困窮者無料職業紹介事業

実施目的	ハローワークの機能だけでは就労を実現できない市民に対し、求人情報を提供し、仕事をあっせんするとともに、人材不足に悩む地域の企業に対し人材確保に係る各種支援を提供する。
概要	地域経済を支えるため、働く意欲がありながら、様々な就労阻害要因を抱え就職できないで悩んでいる人と、なかなか人材が集まらない企業・事業所とをマッチングさせること及び定着を支援する。 【参加対象（ターゲット）】 生活困窮者 【事業開始年度】 H28 年～
連携している企業等及び関わり方	ひろさき生活・仕事応援センターに事業所登録のある 58 社 【企業等の役割】 ・ 企業情報提供 ・ 求人情報提供 ・ 職場見学 ・ 就労体験 【市の役割】 ・ 求職情報提供 ・ 定着支援 ・ 求人企業と求職者とのマッチング
取り組みの工夫	【事業全般】 ・ 生活困窮者自立支援制度に基づく、自立支援事業の相談事業や就労準備支援事業、家計改善支援事業などと連携して就労後の定着に向けた支援を実施。 ・ 職場の見学や体験を実施することで定着に向けた支援を実施。 ・ 青森労働局、商工労政課と連携し、毎月 2 回程度の企業説明会・ミニ面接会や年 2 回の合同説明会を実施。 【告知方法】 広報ひろさき、市 HP などに掲載するほか、登録企業に対して、「ひろさき生活・仕事応援センター通信」を発出するなど周知している。 【実施時期】 通年

○(No.14) 農福連携モデル事業

実施目的	りんご生産工程の中で障がい者が就労可能な作業の掘り起こしを行い、農業と福祉の連携による労働力不足の解消と障がい者の就労機会の創出を図る。
概要	農業者が年間を通じてりんご生産工程における作業を障がい福祉事業所へ依頼。市が農業者から評価等についての報告を受け、作業毎の課題や導入効果の検証を行い、障がい者が就労可能な作業の掘り起こしを行う。 【参加対象（ターゲット）】 障がい者 【事業開始年度】 R3 年～
連携している企業等及び関わり方	市内農業者（個人農業者、農地所有適格法人） 【企業等の役割】 障がい者へのりんご作業の指導、評価及び市への報告 【市の役割】 ・障がい福祉事業所と農業者のマッチング ・農業者が農作業を障がい福祉事業所に委託する費用の一部を補助
取り組みの工夫	【事業全般】 市が間に入り、農業者と障がい福祉事業所との3者面談を行いマッチングを図っている。 【告知方法】 広報ひろさきへの掲載、障がい福祉事業所への訪問、説明 など 【実施時期】 通年

○(No.15) 休職者等農業マッチング緊急支援事業

実施目的	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、休職や自宅待機等となった市民等を人手不足に悩む農業生産現場で受け入れることで、市民生活の安定を図るとともに、労働力を確保することで、りんご等の安定生産に寄与し、地域の維持及び活性化を図る。
概要	休職・自宅待機となった市民等を農業生産現場で受け入れた際の賃金の一部を支援。 【参加対象（ターゲット）】 市民及び市内に通勤・通学している方 【事業開始年度】 R2 年～
連携している企業等及び関わり方	農業法人及び農産物流通事業者：19 社（R2 実績） 【企業等の役割】 雇用の場の提供、市民生活の安定 【市の役割】 ・休職者等を雇用した際の賃金の一部の補助 ・労働力確保の支援 ・事業の周知
取り組みの工夫	【事業全般】 ・本事業を活用した園地の市長現地視察に併せ、本事業の取組みを紹介することを目的にマスコミを呼び込み、取材対応を行っています。 ・公的機関の紹介に加え、第三者の紹介も対象とし、迅速な就労に繋げている。 【告知方法】 広報ひろさき、農業ひろさき、新聞広告、市 HP、メルマガ等、あらゆる広告媒体への掲載のほか、関係各機関へ事業周知の案内（チラシ）を配布した。 【実施時期】 通年

○(No.16) 地元企業魅力発信事業

実施目的	コロナ禍であっても、地元企業が人材確保できるよう、採用活動のデジタル化（オンラインでの採用活動）を推進します。
概要	地元企業の企業概要や採用情報等の発信のほか、職場や社員の雰囲気を感じ取れる企業のPR動画を発信します。 【参加対象（ターゲット）】 高校生、大学生、県外居住者等 【事業開始年度】 R3 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：(株)I・M・S ○企業PR動画制作：計20社 ※既に動画がある企業については制限なく掲載。 ○企業説明会（募集企業数）：計30社 ○企業見学会（募集企業数）：計20社 【企業等の役割】 ・HPの構築・運営 ・採用PR動画の撮影・HPへの掲載 ・オンライン企業見学会・説明会の企画・運営 【市の役割】 ・HP掲載企業の掘り起こし ・オンライン企業見学会、説明会参加企業の掘り起こし ・委託業者へ企業情報の提供
取り組みの工夫	【事業全般】 ・コロナ禍での地元企業の人材確保を応援するため、採用活動のデジタル化を推進し、オンライン（HP）での企業PR動画の発信、企業説明会・見学会を実施することとしています。 ・採用PR動画制作や企業説明会・見学会に参加できる企業の業種等を限定しないことで、幅広い分野の企業が本事業を活用することができます。 【告知方法】 広報ひろさき、市HP・SNSへの掲載のほか、各大学等へ事業開催案内を送付予定。 【実施時期】 ・HP：8月公開予定 ・企業説明会：8・10・12月開催予定 ・企業見学会：9・11月開催予定

就職マッチングに関する全体の所管、成果、課題など

- ・県外在住者、生活困窮者、障がい者など幅広い人がターゲットとなっています。
- ・市の基幹産業であるりんご産業に特化したマッチング支援事業もあります。

【企業等の声】

- ・障がい者の方の作業水準が想像以上で良かった。この取り組みが広がればいい。(農福連携モデル事業)
- ・補助があったので働き盛りの人手が確保できた。(休職者等農業マッチング緊急支援事業)

【課題】

- ・求人票、求職票の取り扱い件数増加（ひろさき移住サポートセンター東京事務所無料職業紹介事業）
- ・障がい福祉事務所の掘り起こし（農福連携モデル事業）
- ・まだまだ人手が足りない（りんご関係）
- ・行政支援（補助）の継続（休職者等農業マッチング緊急支援事業）

④子ども等の職業観の醸成(職場体験、企業見学など)

評価のポイント（意見をいただきたい部分）

- (1) 各事業におけるターゲットへの告知方法は適切か。
- (2) 事業の実施時期は適切か。
- (3) 各ターゲットに併せた事業内容となっているか。
- (4) 企業等、市の役割分担（協働のありかた）は適切か。
- (5) ツアー、体験型の事業の場合、定員を超えた場合の効果的な対応策はないか。
- (6) 現在行っている事業の他に効果的な取り組みはないか。

○(No.17) 地域マネジメント人材育成プログラム構築事業

実施目的	学生や高校生が地域を知り、地域と関わり、社会人として地域に入り、やがて地域を担う人材として学び育つ環境を構築することで、地域の持続的な発展を図る。
概要	・大学生が地域企業、店舗の経営課題に取り組む「まちなかキャンパスプロジェクト」の実施 ・高校生が地域活動に参加する「放課後まちづくりクラブ STEP」の実施 ・大学生と高校生の交流イベントの実施 ・大学生や高校生のまちなかでの活動拠点の運営 【参加対象（ターゲット）】 高校生、大学生 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：(株)BOLBOP ○事業参加協力企業：10 社程度（分野問わず） 【企業等の役割】 ○委託先 ・全体調整 ・各種事業の企画、運営、発信等 ・活動拠点の運営 ○受入企業 ・インターン協力等 【市の役割】 ・全体調整 ・各種事業の企画等
取り組みの工夫	【事業全般】 ・まちなかキャンパスプロジェクトは弘前大学と連携し、単位認定。 ・企画したプロジェクトの実践に取り組む事業者への費用補助。 ・各大学や高校の教員等との情報共有や意見交換の実施。 【告知方法】 広報ひろさき、市 HP・SNS への掲載のほか、各関係機関に周知。 【実施時期】 ・まちなかキャンパスプロジェクト：夏版（7～9 月）、冬版（2～3 月）、短期版（随時） ・STEP：通年 ・交流イベント：9 月

○(No.18) 女性活躍のための地域中小企業技術力体感プログラム

実施目的	地域の理工系分野で女性が活躍している状況を知る機会を創出することで、理工系進路選択の先にある職業イメージを形成し、地元企業への就職を促し、人口減少の軽減を図る。
概要	・市内の中学生・高校生を対象に、高い技術開発力を持つ地域の中小企業を訪問、体験する機会を創出。 【参加対象（ターゲット）】 中学生、高校生 【事業開始年度】 R2 年～
連携している企業等及び関わり方	地域中小企業 【企業等の役割】 ・中学生・高校生の受け入れ ・体感プログラムの実施 【市の役割】 ・事業全体の企画、周知、運営等
取り組みの工夫	【事業全般】 ・理工系の分野で高い技術力を持った企業を訪問。 ・単なる見学ではなく、体感型プログラムを実施。 【告知方法】 広報ひろさき、市 HP・SNS への掲載のほか、各関係機関に周知 【実施時期】 12 月、1 月の冬休み期間（R3 年度から夏休み期間も実施予定）

○(No.19) 弘前ポスター展 2021

実施目的	・学生及び地元クリエイターの人材育成 ・地元商店街の活性化及び当市の魅力度の向上
概要	弘前の土手町商店街を学生が 1 人 1 店舗ずつ取材し、ポスターを作成し、ポスター展を開催する事業。 【参加対象（ターゲット）】 弘前市在住または弘前市内の高校に在学する高校生 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	○委託先：㈱電通東日本青森営業所 ○参加店舗：土手町商店街内の店舗 12 店舗 【企業等の役割】 ○委託先 ・ワークショップによるポスター制作 ・贈呈式、ポスターの掲示、投票、表彰式の開催 ・記録写真や映像の提供 ○参加店舗 ・取材への対応 【市の役割】 ・参加者募集及び事業周知 ・事業全体の総括
取り組みの工夫	【事業全般】 ・ポスター展の人気投票において、投票所からの直接投票のほか、WEB による投票の機会を設けることで、市内外への PR を図る。 ・新型コロナウイルスの影響により県外のトップクリエイターを講師として招くことが困難な場合は、オンラインによる講師の参加を検討。 【告知方法】 市内各高校及び各商店街振興組合への訪問による呼びかけを実施 【実施時期】 ・7 月まで参加者募集 ・9 月中の土日（計 4 日間）：ポスター作製ワークショップの開催 ・10 月：ポスター贈呈式 ・翌年 1 月：表彰式

○(No.20) ひろさき「農の魅力」体験事業

実施目的	市民に農業の大切さや魅力を伝えることにより、将来的に農業やその関連産業に携わる人材の発掘・育成を図る。
概要	【R1～R2 年度】 市内の小学生及びその保護者を対象に、市内農業者を講師として収穫・調理体験や意見交換会などを実施。 【R3 年度】 市内の小学生を対象に、教育委員会と連携し、市内農業者を講師として、学校教育の中でりんごに関する収穫までの一連の生産工程の体験学習を実施。 【参加対象（ターゲット）】 《R1～R2 年度》市内小学生及びその保護者 《R3 年度》市内小学校 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	市内農業者（個人農業者、農業法人）など 【企業等の役割】 農作業体験などに関する講師 【市の役割】 体験内容の企画・調整、講師に対する報償金などの支払い
取り組みの工夫	【事業全般】 《R1～R2 年度》 ・収穫体験だけでなく、自身が収穫した農産物を使用する調理体験も実施。 ・農業に興味をもった保護者に対して、県や市の研修事業などを周知。 《R3 年度》 ・市の基幹産業であるりんごへの興味・関心を高めるため、これまでりんごの作業体験を教育課程に取り組んでいない市内の小学校を対象に、収穫までの一連の生産工程を体験してもらう。 【告知方法】 《R1～R2 年度》 ・市 HP 及び広報誌における募集の周知。 ・市内小学校に対しての事業周知用チラシの配布。 《R3 年度》 ・市小・中学校長会議における事業の周知。 【実施時期】 《R1～R2 年度》9 月～10 月 《R3 年度》通年

○(No.21) 地域産業魅力体験事業(工芸品関連)

実施目的	弘前市が持続的に発展していくために、次の時代を託す、地域を担う人材を育成する循環モデルを構築する。
概要	地元生産品に触れて知るプロジェクトにおいて、市内の小中学生を対象に、当市工芸品の製作体験や工場見学を実施する。 【参加対象（ターゲット）】 市内小中学生 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	青森県漆器協同組合連合会、ブナコ（株）、（有）弘前こぎん研究所、津軽千代造窯、（株）青森県特産品センター 【企業等の役割】 ・製作体験における講師や工場見学の案内 【市の役割】 ・小中学校への募集 ・製作体験や工場見学の実施日程や内容の調整
取り組みの工夫	【事業全般】 小中学生が、地元生産品に触れ、知り、学ぶために、実際の工芸品の職人が講師となり、歴史や作り方等を教え、製作体験や工場見学をすることで、優れた技能や技術を伝える。 【告知方法】 年度初めに、各小中学校へ募集案内を通知 【実施時期】 ・小中学校への通知：4 月 ・製作体験／工場見学の実施：6 月～1 月

○(No.22) 誘致企業体験ツアー

実施目的	義務教育の時期に、産業教育の一環として誘致企業の見学を通じて職業観を養ってもらい、かつ、誘致企業の認知度が向上することで、就業人材の獲得を図る。
概要	市内小中学生及びその保護者を対象とした市内誘致企業を巡るツアーを実施。 【参加対象（ターゲット）】小学生、中学生 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	市誘致企業 35 社 【企業等の役割】 企業説明、見学対応、体験の企画・実施 【市の役割】 参加者、参加企業の募集、バスの手配
取り組みの工夫	【事業全般】 企業には見学だけでなく、「体験」を用意してもらい、楽しんで企業およびその仕事について学んでもらえるようにしている。 【告知方法】 広報、市 HP での告知に加え、市内小中学生へチラシを配布 【実施時期】 夏休み、冬休み、シルバーウィーク など

○(No.23) 高校進路指導教諭対象誘致企業ツアー

実施目的	進路指導にあたる高校教諭の皆様に弘前市の誘致企業を実際に見ていただく機会を設け誘致企業の魅力を伝えることで、新規高卒人材の地元定着を図る。
概要	高校進路指導教諭を対象に誘致企業ツアーを実施 【参加対象（ターゲット）】高校生の指導教諭 【事業開始年度】 R3 年～
連携している企業等及び関わり方	市誘致企業 35 社 【企業等の役割】企業説明、見学対応 【市の役割】参加者、参加企業の募集、公用車による送迎
取り組みの工夫	【事業全般】 中南地域県民局と連携し、中南地域県民局主催の高卒者採用セミナーが午後に開催される日の午前中に実施することで、進路指導教諭が参加しやすいようにした。 【告知方法】 中南地域県民局による各高校への案内文書に掲載 【実施時期】 高校総体終了後、または、採用活動が本格的になる前の時期に実施。

○(No.24) 学びのまち情報提供事業

実施目的	食育や健康づくりなどを含む様々な分野の情報や弘前の暮らしに根付き、無くてはならない人やモノ、営みなどの情報を、市民や学校、企業等が活用しやすい情報として提供し、学習活動や団体間の連携などを促進する。
概要	市内の企業や団体、関係機関の特徴や日常活動、特色ある活動など学びにつながる情報を収集し、市民・団体等へ提供する。 【参加対象（ターゲット）】小学生、中学生、高校生、大学生、その他の市内外住居者 【事業開始年度】 R1 年～
連携している企業等及び関わり方	職場体験等の情報提供企業等の数：35 社 【企業等の役割】 各企業が実施できる職場体験・職場見学・出前講座等の学びにつながる情報を生涯学習課に提供。申込みがあった際の対応。 【市の役割】 各企業からの職場体験等の学びにつながる情報を、市ホームページ上で公開。
取り組みの工夫	【事業全般】 学びにつながる情報の収集分野を拡大している。また、本事業のホームページが利用者にとって活用しやすい内容となるように、リニューアルを計画している。 【告知方法】 ・市内小中学校を通じて、児童生徒を持つ各家庭へのチラシ配布を検討。 ・市ホームページ（リニューアル予定） 【実施時期】 通年

子ども等の職業観の醸成（職場体験、企業見学など）に関する全体の所管、成果、課題など

- ・農業、製造業、メディア関連、手仕事（工芸品関連）など幅広い職種に触れる機会を創出しています。
- ・事業者側が受け入れる際に体験、体感プログラムを取り入れるように工夫している。

【企業等の声】

- ・企業の認知度向上に役立っている。
- ・参加者の中から将来の後継者が出てくれば嬉しい。

【参加者の声】

- ・学校生活では学ぶことのできない経験をすることができた。
- ・将来働くことについてイメージすることができた。
- ・市内にある様々な企業、働き方を知る事ができた。

【課題】

- ・事業によっては定員が埋まってしまい、断るケースもある。
- ・コロナ禍における受け入れ企業の掘り起こし。